PLAN INTERNATIONAL

Until we are all equal

勢いを増す嵐

サヘル地域の女の子とユースの権利に対する気候変動のジェンダー的影響に関する調査

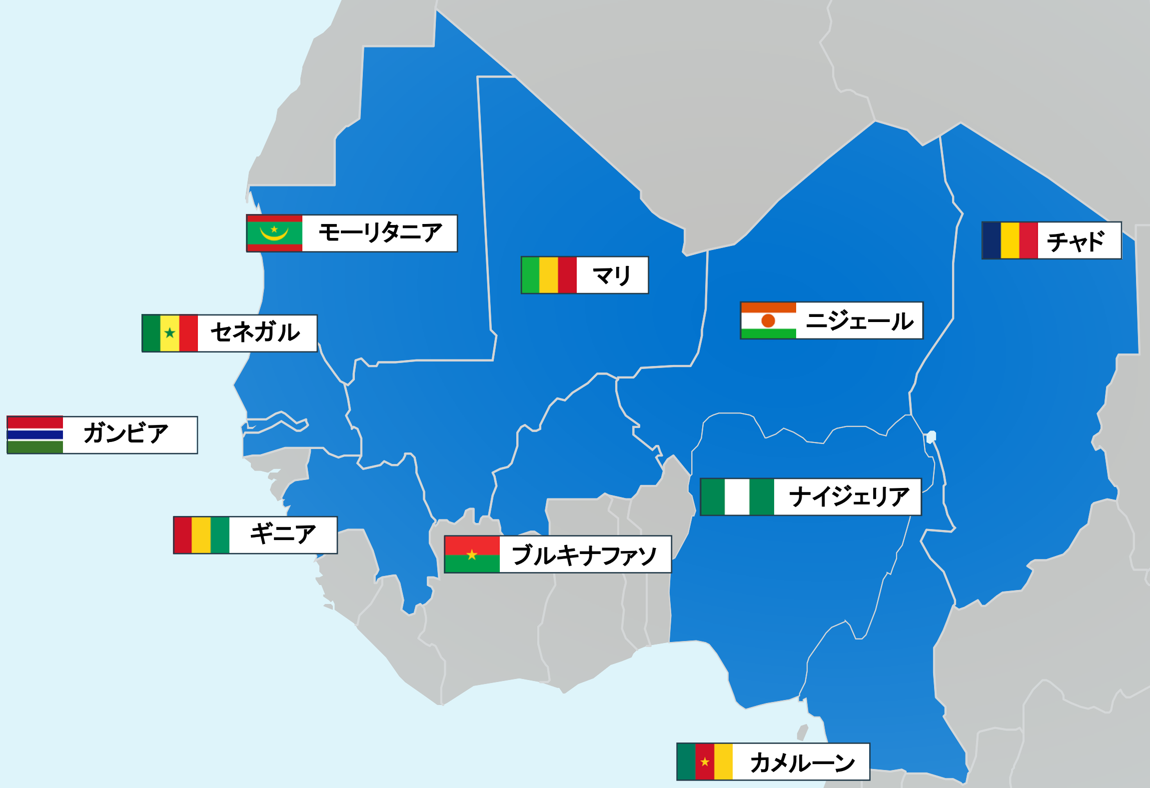
要約

表紙写真: 窓から外を眺める女の子、シエラレオネ
© Plan International / Quinn Neely

勢いを増す嵐

本報告書は、サヘル地域の複数国を対象とした調査結果のまとめである。気候変動およびその影響、特に思春期の女の子とユース女性の実生活に、どのような影響を与えるかという点に着目している。

本調査の目的は、気候変動がジェンダーにもたらす影響について理解を深めるとともに、思春期の女の子とユース女性を支援するための具体的な方策を明らかにし、プラン・インターナショナルおよびそのパートナーによるプログラムの改善・強化に活用することである。本調査は、プラン・インターナショナルの代理としてheraが実施した。



本地図について

本地図に示されている境界線・名称・表記は、プラン・インターナショナルによる公式な支持・承認を意味しない。

対象国情報

本報告書で言及される4カ国

(ギニア・マリ・ニジェール・ナイジェリア)は、気候変動の脅威に遭う危険が高い

本報告書で言及される1カ国

(ブルキナファソ)は、気候変動の脅威に遭う危険が極めて高い[1]

気候変動の影響の程度と、それに対する準備態勢を比較した際、本報告書で言及される国はすべて、

世界でもっとも気候変動への適応度が低い

30カ国に含まれている[2]

OECDの「社会制度とジェンダー指数」(SIGI)[3]最新版によると:

- 本報告書で取り上げる5か国は、いずれもジェンダー平等指数が低い水準にとどまっているが、ブルキナファソでは近年、一定の前進が見られている
- 概して、伝統的なジェンダー役割が依然として支配的であり、早すぎる強制された結婚(CEFMU)の割合は高く、女の子と女性の教育や経済的機会の享受が制限されており、ジェンダーに基づく暴力は常態化している。
- 本報告書で言及される5カ国では、ジェンダー関連法の施行が未だに徹底されていない。

目次

勢いを増す嵐 2

対象国情報 3

はじめに 6

調査方法 7

調査目的 8

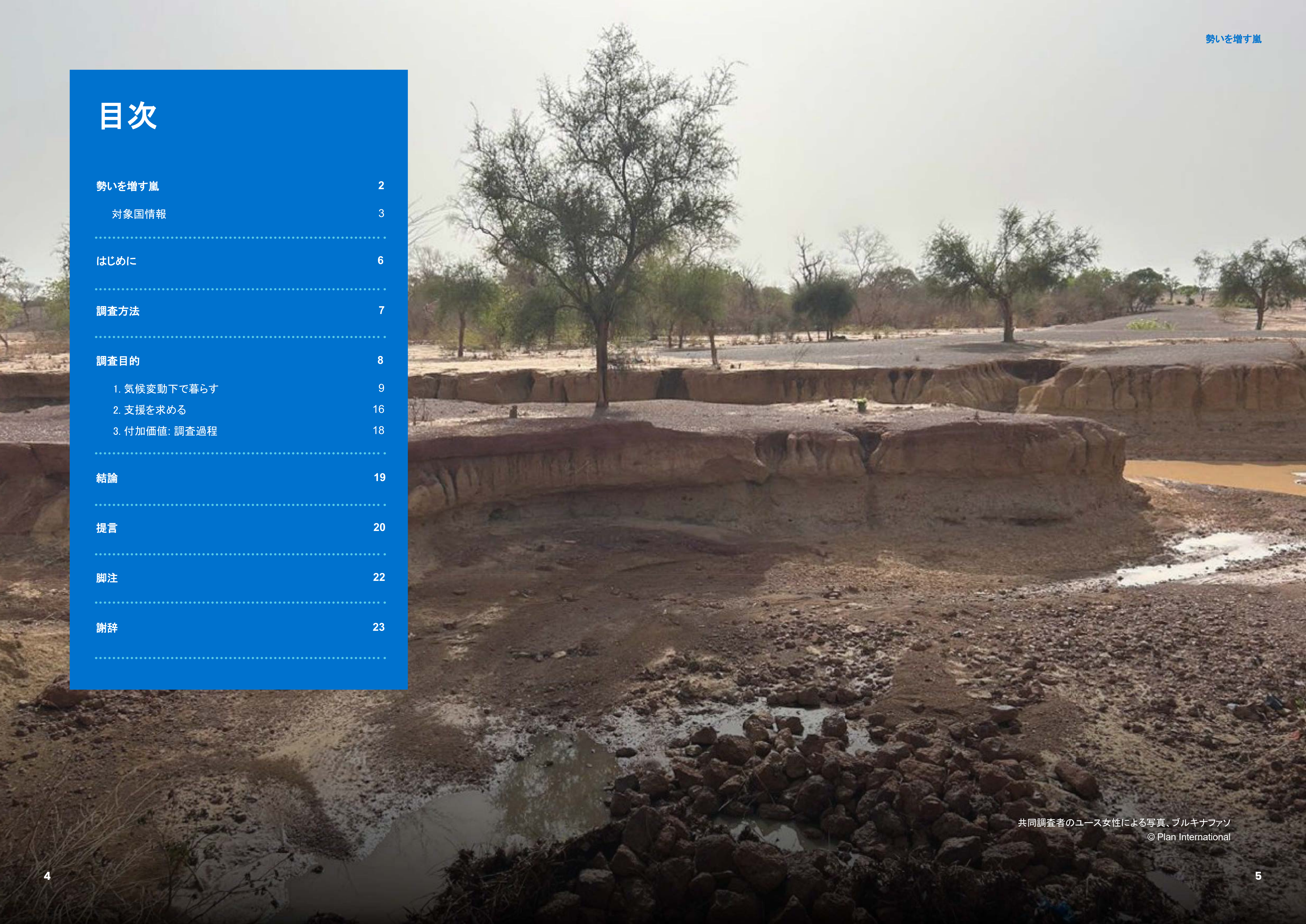
1. 気候変動下で暮らす 9
2. 支援を求める 16
3. 付加価値: 調査過程 18

結論 19

提言 20

脚注 22

謝辞 23



共同調査者のユース女性による写真、ブルキナファソ
© Plan International

はじめに

近年、プラン・インターナショナルはジェンダー不平等に着目し、女の子とユース女性とともに、権利を求め、声を上げるための活動を行ってきた。これは世界的な問題である。これは世界的な課題である。世界各地で女の子たちは本来得られるべき機会を奪われ、そのニーズや権利は軽視されている。こうした不平等は、危機的状況に直面するとさらに深刻化する傾向がある。気候変動で飢饉や洪水が起きると、家庭の経済状態は破綻する。また気候変動が原因となって、土地や資源をめぐる移住や暴力も増加する。ジェンダーおよび社会的不平等は拡大し、食料・水・健康・暴力からの保護などの、重要な人権が脅かされている[4]。

気候変動の影響は、西アフリカのサヘル地域で特に重大である[5]。サヘル地域では、紛争や様々な暴力、慢性的な食料不安、避難、貧困が絡み合っている。それが気候変動により一層悪化し、ジェンダー問題の深刻化を招いている。すべての人がその影響を受けているが、思春期の女の子とユース女性はさらに特有の困難に直面している。

本調査は、女の子とユース女性の声や経験に焦点を当て、それらを基盤として実施された。本調査は、構造的変化の促進を目的とした調査手法である「フェミニスト参加型行動調査(FPAR)」に基づいて実施された。思春期の女の子や若年女性は、調査テーマに関する専門性と貴重な経験を有しており、彼女たちの声や体験こそが調査および政策的取り組みの中心に据えられるべきだという理念に立脚している[6]。 彼女たちは、自身の体験を的確に表現することが可能であり、自身の生活や属するコミュニティの生活の改善のために何をするべきかを理解しているため、調査対象者として最適である。

> **「私たちは、そうしたことを尋ねてもらえて本当に嬉しく思っています。これまで、自分たちの悩みや心配事について話す機会はほとんどありませんでした。自分たちの困難を共有できる場が与えられたことに、心から感謝しています」**
> 思春期の女の子の参加者(15～17歳)、
> ティラベリ、ニジェール

共同調査者のユース女性による写真、セグー、マリ
© Plan International

調査方法

本調査は2段階に分けて実施された。

第1段階

文献レビューおよび主要な情報提供者に限定したインタビューを実施し、気候変動のジェンダー的な側面での影響に関連する政策の不備を明確化するとともに、既存のアクターとプログラムのマッピングを行った。調査対象国はサヘル地域の10カ国(ブルキナファソ・カメルーン・チャド・ガンビア・ギニア・モーリタニア・マリ・ニジェール・ナイジェリア・セネガル)である。

第2段階

第2段階として、2023年4月～2024年10月にナイジェリア・ニジェール・マリ・ブルキナファソ・ギニアの5カ国で実施された調査に焦点を当てている。FPARに基づく協働型手法が採用され、heraチームは、25名のユースの共同調査者と彼らのメンター、およびプラン・インターナショナルの国/地域別チームと協力して調査を行った。

共同調査者は調査の中心的役割を果たした

彼らは一連の研修ワークショップに参加し、設計・実施・分析の全段階に関与した。

彼らは、472名の思春期の女の子とユース女性に対し、ピアツーピア調査を実施した

彼らは、一連のフォーカス・グループ・ディスカッション(FGD)を実施した

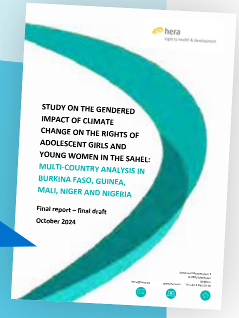
加えて、彼らは391名の参加者を対象に、写真の撮影とその写真に対するコメントを通じて自己表現を促す「フォトボイス」手法を実践した

本調査には

本調査には、15～17歳と18～24歳の**2**つの年齢層に分かれた、

合計**863名**の思春期の女の子とユース女性が参加した

詳細な調査方法に関しては、左のQRコードで参照可能



調査目的

本調査は、以下の問いに対する答えを見つけることを目的に実施された。

①
思春期の女の子は、気候変動のジェンダー的な側面での影響を、生活する上でどのように経験・認識しているのか、また彼女たちの仲間の現状はどのようなものか

②
世界・地域・国家・現地レベルにおける各当局に対し、女の子とユース女性は何を望んでいるのか

③
本調査の一環としてのFPARの採用を、共同調査者はどう受入れ、理解していくのか

共同調査者のユース女性による写真、ブラ、マリ
© Plan International

調査過程の第1段階では、気候変動対策政策・プログラムで女の子の権利がほぼ考慮されていないことが明らかになり、女の子とユース女性の多様性も考慮されていないことが示された。

また第1段階で、食料安全保障や教育、性とジェンダーに基づく暴力(SGBV)、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)が、思春期の女の子とユース女性が特に不利な状況に置かれている領域であることが特定された。

本調査は、女の子とユース女性の状況を把握し、気候変動により彼女たちが直面している不平等と困難を是正するために、公的機関がどのような手立てを講じることができるのかを明確にするため、それらの領域に焦点を当てている。

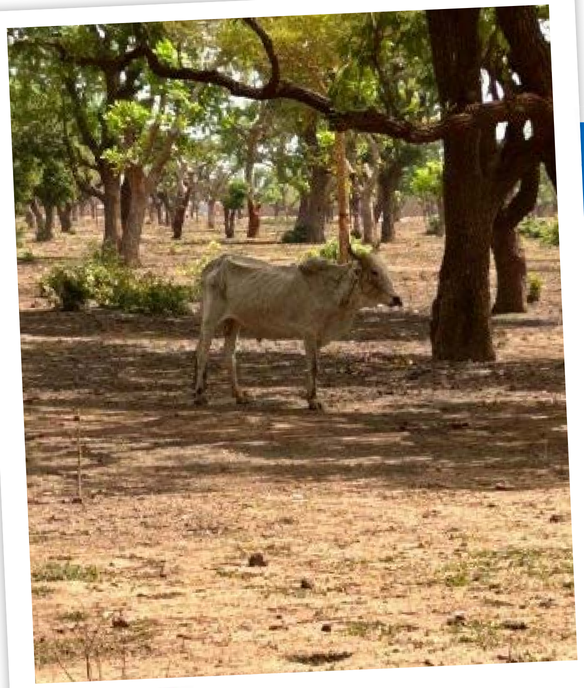
調査結果

1. 気候変動下で暮らす

食料安全保障

調査参加者の49%が気候変動に関する多くの情報の入手を望んでいたが、学校のカリキュラムに気候変動が組み込まれているのはブルキナファソのみだった。思春期の女の子とユース女性は、自身や家族が直面している食料不安が気候変動に起因していることを理解していた。洪水や大雨、猛暑、干ばつといった異常気象が、農作業のサイクルの乱れや収穫量の減少、さらには(下の写真が示すように)家畜の餌の不足といった状況を引き起こしていることを、彼女たちは理解していた。

共同調査者のユース女性による写真、ワラム、ニジェール
© Plan International



フォトボイス
すべての写真が物語る

「干ばつの悪化は、動物にも深刻な影響を及ぼしています。主な食料源である新鮮な草が不足しており、過酷な状況に置かれています」

共同調査者のユース女性による写真、ワヒグヤ、ブルキナファソ

調査結果

食料安全保障は、気候変動によってもたらされる最も深刻な脅威の一つであり、参加者が最も強い関心を寄せている問題でもある。調査対象となった5か国すべてで食料の供給が不足しており、販売可能な作物もなく、他の生活必需品を購入するための資金も不足している。

> **「食べ物と飲み物が不足していて、私たちは満たされておらず、苦しんでいます」**
> 思春期の女の子の参加者(15〜17歳)[7]、ワヒグヤ、ブルキナファソ

この問題への対応策として、以下のような取り組みが挙げられた。
- 1日の食事回数を減らす
- 食料費を稼ぐための、インフォーマルあるいはパートタイム労働への参加
- 他の人から食料やお金をもらう、または借りる

一部のコミュニティでは、リソースの不足やニーズが満たされない状況により、CEFMUの増加が報告されている。

思春期の女の子とユース女性の多くが、食料や金銭と引き換えに身体を売るという行為に頼らざるを得なかったと述べた。

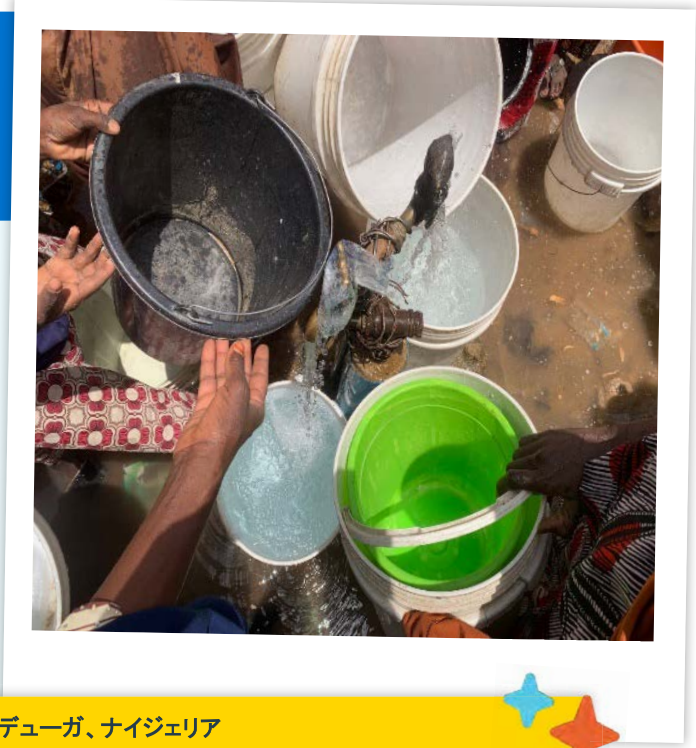
> **「気候変動によって、女の子や女性が食料を得るために自身の身体を売らざるを得ないという状況が生まれています」**
> ユース女性の参加者(18〜24歳)[8]、コンデューガ、ナイジェリア

貧困とリソース不足は、また別の形でSGBVの増加を招いている。

参加者は、思春期の女の子とユース女性が水を汲むために長距離を歩かなくてはならず、そのため暴力やセクシュアル・ハラスメントに遭う危険が増加していると述べた。

フォトボイス
すべての写真が物語る

> **「地方部では、他に安全な水源がないため、住民は川の水を飲用水として使用しており、その結果、感染症などの病気にかかりやすい状況にあります。特に女の子たちは、水を汲むために長距離を歩かなければならず、その途中でセクシュアル・ハラスメントや性的搾取、さらには身体的な危害を受けるリスクが高まっています。また、こうした水の問題は、個人の衛生管理にも深刻な悪影響を及ぼしています」**



共同調査者兼参加者のユース女性による写真、コンデューガ、ナイジェリア

調査結果

SGBVとSRHR

フォトボイス
すべての写真が物語る

> **「ここは魚を買いに来ていた川でした。私たちの農場の灌漑用水源でしたが、今では干上がっています...。干ばつのため、米農家の人びとは炭焼き加工等の、代替の生計手段を探していますが、状況は深刻で、女の子の誘拐やCEFMUが起きています」**

共同調査者のユース女性による写真、コンデューガ、ナイジェリア

SGBVとSRHRは、沈黙の中に隠された事柄である。ナイジェリアとギニアでの共同調査者であるユース女性による分析によって、開かれた議論を阻む重大な障壁があることがわかった。

ニジェールで、性と生殖の健康について話すことはタブーとされている。参加者がコミュニティ内の問題に言及した際、それらを気候変動と関連付けたわけではないが、回答全体から、気候変動・貧困・食料不安が相互に関連し、様々なSGBVの引き金となっているのは明確だった。

> **「食べるものがなくなってしまったら、娘を結婚させるしかありません」**
> ユース女性の参加者(18〜24歳)[9]、コイヤ、ギニア

59%の参加者は、家族が基本的生活必需品の確保できなくなり、思春期の女の子とユース女性の家事労働が増えると、危険度が上昇すると述べた。こういった経済的苦境は、家庭内暴力(DV)の発生増加にもつながりかねない。

> **「家に食料がないことが耐えられず、DV加害者となる男性がいます。彼らはその状況を妻のせいにして殴るのです」**
> ユース女性の参加者(18〜24歳)、マリ

全体的に、移住や貧困、そして法制度・警察体制・社会支援制度の崩壊といった、気候変動による混乱状況は、人身売買・搾取・ジェンダーに基づく暴力の発生率を高めている。

調査結果

教育

貧困とリソースの不足は、思春期の女の子とユース女性の就学の継続性にも影響を及ぼしている。

> 「父は亡くなり、母は畑仕事をしています。収穫量が少なく、母には私たちきょうだいの教育費を支払う十分な収入がないので、私は中途退学して家で母の手伝いをしなければいけません」
> 思春期の女の子の参加者(15～17歳)[10]、コイヤ、ギニア

大多数のコミュニティでは、ジェンダー規範によって、家庭内労働は女性と女の子がするものだと決めつけられていた。調査回答者の大多数は、一般的な家事・調理の準備・水や薪の収集を行っていた。

彼女たちの大多数が、気候変動のために家事に費やす時間が増えた結果、勉強の時間や授業への出席が減ったことを認めた。

また、思春期の女の子とユース女性は、パートタイムで危険を伴うことが多い仕事に従事し、家庭の収入に貢献するよう強いられていると感じることが多いとも述べた。

> 「物売りや労働など、他にもしなければいけない重要なことがあるため、高温・食料不足・降雨不足の状況下で、子ども、特に女の子は、学校に通うのが負担だと感じています」
> 思春期の女の子の参加者(15～17歳)[11]、コンデューガ、ナイジェリア

共同調査者のユース女性による写真、ワラム、ニジェール
© Plan International

調査結果

フォトボイス
すべての写真が物語る

> 「伐採は土壌侵食を引き起こします。伐採するのは主に男性です。そのために土壌は劣化し、作物の収穫量が減少します。伐採により日陰がないため、大多数の女の子が学校に通えません。女の子の多くは、自立のため、自身のニーズを満たすため、学費の支払いのため、そして食料を購入するために、炭焼き加工に従事しています。多くの場合、男性と女性の賃金は異なります。女性はセクシュアル・ハラスメントを受けています」

共同調査者のユース女性による写真、コンデューガ、ナイジェリア

ひとたび女の子が中途退学すれば、CEFMUを強いられたり、鉱山労働等の、命の危険が伴う職業に従事させられたりする可能性が高まる。CEFMUと教育の欠如が、彼女たちの将来の生活と可能性に与える影響は計り知れない。

> 「CEFMUの増加に、私自身も動揺しています。保護者が家族のニーズを満たす手段がない場合、結婚させて子どもを早く手放そうとしているから、私も不安なのです」
> ユース女性の参加者(18～24歳)[12]、ブラ、マリ

調査結果

健康

思春期の女の子とユース女性の健康への影響は多様で、SRHRに限定されたものではなかった。

もともと避妊や妊娠に関するケアや支援を提供する医療施設は不足しており、アクセスが困難な状況にあった。さらに、道路の崩壊や橋の破壊により、これらの施設への訪問が危険または不可能となり、サービスの利用は一層難しくなっている。これは言うまでもなく、極めて深刻な問題である。

> **「大雨になると、医療センターへ行くことできなくなる人たちもいます。彼らは家にある薬でどうにかするしかありません」**
> 思春期の女の子の参加者(15〜17歳)[13]、セグー、マリ

調査の結果、思春期の女の子とユース女性が月経衛生の管理に大きな困難を抱えていることが明らかとなった。この状況は単に不快であるだけでなく、心理的・身体的な健康に悪影響を及ぼし、学校への出席にも支障をきたしている。

> **「月経用の布を適切に洗濯できないと、他の(健康上の)問題を引き起こす可能性があります」**
> 思春期の女の子の参加者(15〜17歳)[14]、ワヒグヤ、ブルキナファソ

メンタルヘルスについては本調査で大きく取り上げられることはなかったものの、ストレスや不安、全体的な心配の増加についての言及があり、それらは主に食料不安・避難・生計手段の喪失といった要因と深く関連していることが示された。

参加者はまた以下の点を指摘している。

- 自宅周辺の環境汚染は健康に悪影響を及ぼす可能性があること、そしてゴミであふれた川などの環境破壊が、洪水をはじめとする気候変動の影響をさらに深刻化させていること。
- 頭痛・皮膚感染症・めまい・コミュニティにおける死亡率の上昇は、気候変動による気温の上昇と関連していること。
- マラリアの発生件数の増加は、洪水やその後の滞水によるものであること。

フォトボイス
すべての写真が物語る

「かつて、その小さな湾は、女の子たちが身体や衣服を洗ったり、調理用の水を汲んだりする場所でした。隣接する土地には作物も植えられていました。ところが、人びとが次第にその湾にゴミを投げ捨てるようになり、今では湾も周囲の農地も使いものにならなくなってしまいました。さらに、病院が注射器を含む医療廃棄物をそこに捨てに来ており、子どもたちがそれを拾ってケガをしたり、病気にかかったりすることもあります。大雨の際には水があふれて洪水が発生し、住宅にまで浸水するため、住民は移住を検討せざるを得ない状況にあります」

共同調査者のユース女性による写真、コイヤ、ギニア

調査結果

食料・水・教育は、調査回答者の大多数によって「最もニーズが満たされていない分野」として挙げられた。これに続いて、経済的支援・心理社会的支援・情報へのアクセスが必要とされていることが明らかになった。

これらのニーズが満たされていないと回答した人びとの多くは、避難や移住を経験している人、慢性疾患を抱えている人、CEFMUを経験した、あるいは現在そのリスクにさらされている人、そして障害のある人々であった。各国間に見られる違いはわずかであり、主要なテーマには多くの共通点が確認された。

> **「気候変動は、特に食料安全保障・教育・SRHR・SGBVの点で、思春期の女の子に重大な影響を及ぼしています...それに対応するには、ジェンダーに配慮しつつ、気候変動への適応と、その影響を軽減するような手法が求められます」**
> 共同調査者のユース女性、ナイジェリア

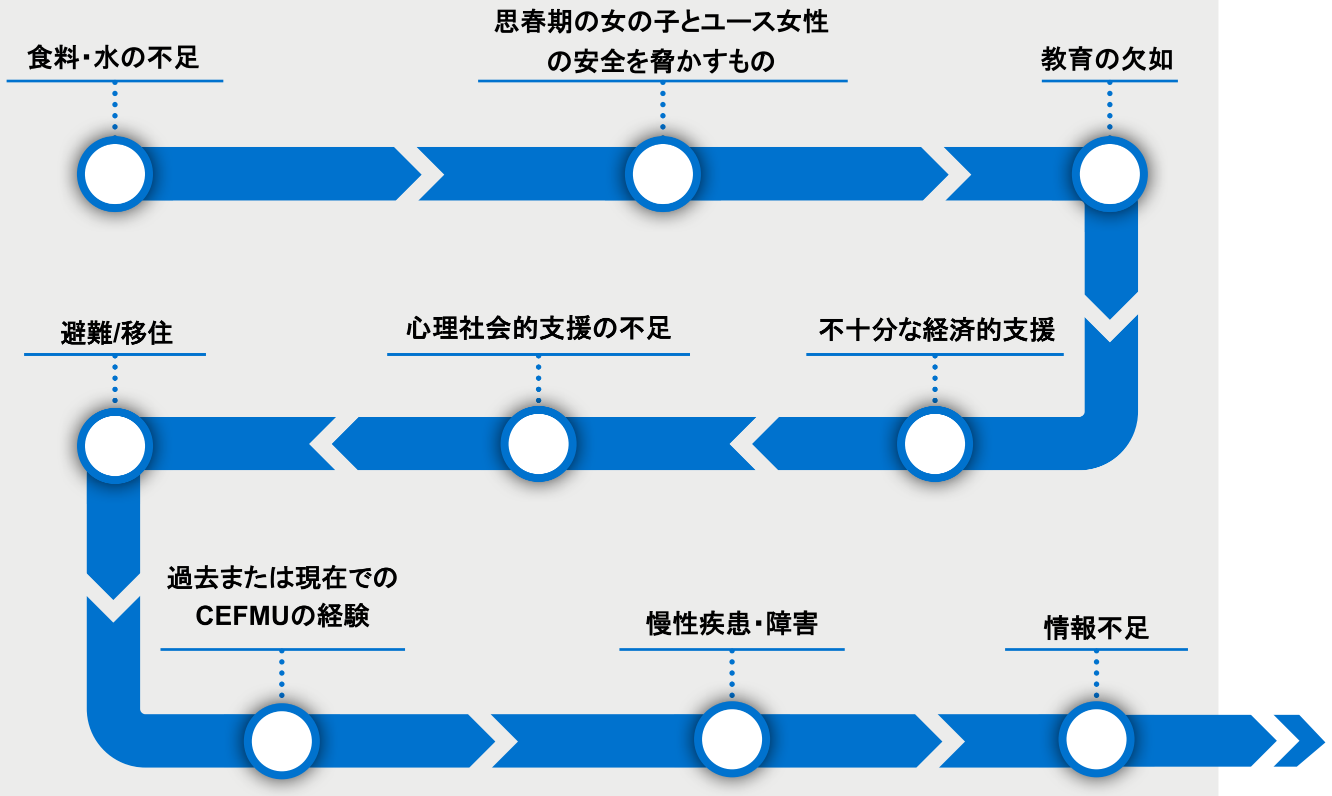


図 1 気候変動の相互関連する影響

気候変動はコミュニティ全体に深刻な影響を及ぼしているが、特に思春期の女の子やユース女性の現在の生活と将来の見通しに、最も重大な影響が及んでいる。彼女たちは中途退学を余儀なくされ、早すぎる結婚を強いられ、SGBVやハラスメントのリスクも高まっている。こうした困難のなかで、彼女たちの声や権利、ニーズはしばしば置き去りにされており、だからこそ、「彼女たち自身が何を必要としていると考えているのか」を明らかにすることが極めて重要である。

調査結果

2. 支援を求める

調査から、思春期の女の子とユース女性は、公的機関による気候変動対策に頼るだけではなく、その多くが積極的に活動していることが明らかになった。

彼女たちの活動の例として以下が挙げられる。

- 洪水や滞水を防ぐために、通りや公共の場の清掃、排水設備の維持管理、廃棄物の適切な処理などの環境整備を実施すること
- 森林破壊および砂漠化の抑制、気候変動の影響の軽減、さらには日陰の確保を目的として、家庭・学校・コミュニティにおける植樹および森林再生の取り組みを推進すること
- 気候変動への適応の重要性について、コミュニティ全体の理解を深めるとともに、清潔な環境を維持し、ごみのポイ捨てや環境汚染を防ぐための啓発活動や支援を実施すること

各地の女の子やユース女性たちは、これらの活動への参加にあたって、資金やリソースの不足をはじめとする多くの課題に直面していると訴えている。具体的には、必要な物資・設備・苗木や移動手段の不足、植樹や清掃などの活動に不可欠な水の確保が困難であること、さらにはコミュニティからの支援や協力が得られないことなどが挙げられている。

> **「私たちは気候変動と闘いたいのですが、支援がないのです」**
> 思春期の女の子の参加者(15～17歳)[15]、ブラ、マリ

共同調査者のユース女性による写真、フォレカリア、ギニア
© Plan International

調査結果

「男性は私たちを過小評価しています…」

調査参加者の多くは、政府・地方自治体・NGO・他の組織に対し、彼女たちのレジリエンスと活動を強化するために、情報提供・資金援助・物資供給・教育/訓練の提供による支援を求めている。

彼女たちは、若くて女性であるというだけの理由で、コミュニティレベルで効果的に働く能力がないとみなされ、意見を聞いてもらえないと訴えた。

> **「男性は気候変動との闘いでの私たちの力を、過小評価しています」**
> 思春期の女の子の参加者(15～17歳)[16]、ブラ、マリ

公的機関は以下のニーズに対処するべきであるが、ほとんどのコミュニティにおいて満足のいく結果は得られていない。それを彼女たちはしっかりと把握していた。

- 女性およびユースを重視した、雇用機会や収入創出の確保
- ボアホール・手押し井戸・排水設備などのインフラ整備
- 気候変動・環境保護・衛生に関する啓発活動の推進
- コミュニティ内の安全性の強化と犯罪や搾取の防止対策の実施
- 女の子とユース女性を含むコミュニティとの連携強化と、彼女たちの意思決定プロセスへの積極的な参加の促進

> **「思春期の女の子とユース女性は、気候変動の被害者であるだけでなく、その解決策を見出す上でも重要な役割を果たし得ます。彼女たちの教育、エンパワーメント、そして意思決定への参加は、気候変動の影響と効果的に立ち向かうために欠かせない要素です」**
> 共同調査者のユース女性、マリ

コミュニティの収穫した穀物の管理施設を運営するユース女性、マリ
© Plan International

全体として、思春期の女の子とユース女性は、コミュニティにおける気候危機への対応において高い主体性と決断力を発揮していた。彼女たちは、あらゆるレベルの公的機関に対して支援を求めており、その提言は、自らの身近な状況に根ざした実践的なものである。また、彼女たちはその解決において、自らが積極的な役割を果たすことにも強い意欲を示している。

調査結果

3. 付加価値: 調査過程

調査チームは、用いた調査手法が共同調査者および調査そのものの質に与える影響の評価に強い関心を寄せていた。調査者と参加者との間にあった垣根がある程度取り払われたことで、調査の全過程を通じた相互的な学びと支援が促進されたことは、明らかであった。

> **「調査結果は、コミュニティでの実体験に基づいているため、より高い信頼性があり、実践的なものだと思われます」**
> 共同調査者のユース女性、ナイジェリア

共同調査者は、調査過程が調査者の経験や知識、行動を向上させるための有益な機会となったと述べた。調査者の多くが、ジェンダーや気候変動、調査方法に関する理解が大幅に向上したと話した。

> **「ワークショップは大変楽しく、特に調査の全段階に私たちを参加させてくれた点がよかったです。これは私たちにとって訓練でもあり、これからの人生にとても役に立つと思います」**
> 共同調査者のユース女性、ブルキナファソ

フォトボイス手法は、共同調査者と参加者にとって、これまでに体験したことのない有益なツールであるとの声が多く寄せられた。この手法により、思春期の女の子とユース女性の体験が調査の基盤となり、気候変動が生活や生計に与える影響が視覚的に伝わることで、議論がより活発に行われるようになった。

> **「フォトボイスとFGDを通じて、私たちは参加者に自由な自己表現の場を提供しました。その結果、参加者は影響や誘導を受けることなく、気候変動に関する自身の経験や考えを率直に語ることができました」**
> 共同調査者のユース女性、ブルキナファソ

> ! **深い洞察と信頼性の高いデータ収集を可能とさせた、FPAR参加型手法の持つ特質は、すべての共同調査者によって高く評価された。**

参加型手法は、5か国すべての調査に関わった共同調査者にとって、革新的かつ意義深い経験となったようである。この手法は、気候変動に対する理解を大きく深めるとともに、調査と提唱活動に必要なスキルや自信を育む機会ともなった。

> **「FPARの主な強みには、参加者の声を社会に提唱すること、知識の提供を通じて参加者をエンパワーすること、そして状況に応じた実践的な解決策を生み出すことなどが挙げられます」**
> 共同調査者のユース女性、ナイジェリア

気候変動教育の授業でポスターを掲げる生徒、シエラレオネ
© Plan International

結論

本調査に思春期の女の子とユース女性が参加したことにより、気候変動が彼女たちの食料と水の安全保障・健康・安全・将来の展望・全般的な幸福といった、多方面にわたり深刻な影響を及ぼしていることが明らかになった。

また、彼女たちの能力やレジリエンス、コミュニティのため、そしてともに取り組もうとする意欲も明らかになった。参加型という調査方法は、未来に引き継がれる財産を生み出した: 知識の拡大・自信の構築・コミュニティにおける思春期の女の子とユース女性のレジリエンスと活動の定着などである。

自給自足農家が多く貧困状態が続く地域では、気候変動による洪水や干ばつ、猛暑といった予測不可能な気象状態によって、人びとの生活がますます不安定なものとなっている。

また、以前から存在していたジェンダー差別や不平等が、危機や混乱の状況下で思春期の女の子とユース女性のリスクを高めている場合が大半である。つまり調査参加者が指摘する通り、包括的かつ対象を絞った政策と、プログラム的介入策が、早急に求められていることは明らかである。

> ! 以下の提言は、本調査参加者の多くの思春期の女の子とユース女性回答者・共同調査者が述べた希望に基づいている。

提言

気候変動の影響を軽減しつつ、ジェンダー平等を推進していくためには、計画の立案段階から実施に至るまでのすべてのプロセスにおいて、思春期の女の子の参画を確保することが重要である。彼女たちの権利を尊重し、ニーズを的確に捉え、声に真摯に耳を傾けることが、持続可能かつ公平な対応の実現に不可欠である。

> **「思春期の女の子とユース女性を参加させてくれたことが嬉しいです。それは私たちを大切にしてくれている証拠で、女の子と男の子の間に隔たりがないことを示してくれるからです」**
>
> 思春期の女の子の参加者(15～17歳)[17]、ジェレ、ナイジェリア

共同調査者のユース女性による写真、ワラム、ニジェール
© Plan International

国・地方政府

国・地方政府には以下を求める。

- **気候変動がジェンダーに及ぼす影響を正しく認識した上で、思春期の女の子とユース女性と協力**し、ジェンダー・トランスフォーマティブなプログラムや政策に対して、十分な予算を確保し、その執行を着実に行うことが求められる。併せて、情報提供・防災対策・植林・廃棄物管理・土壌回復・森林破壊の防止などを含む復興に関する草の根レベルの活動に対しても積極的に協力し取り組む必要がある。これらの活動を効果的に進めるためには、監視委員会の設置を通じて透明性を確保し、国家全体として気候変動に対する啓発を強化することが重要である。
- 食料・水・教育・健康といった社会経済的権利を保障するため、**法的枠組みと環境政策の見直し・改正を行い、確実に施行**すること。併せて、汚染・環境破壊・気候変動への適応に関する啓発活動を推進することが求められる。
- **家計**が困窮した場合でも、思春期の女の子やユース女性が犠牲を強いられることのないよう、彼女たちが自ら代替的な収入源を見つけられるような**経済的支援**を行うこと。

国際NGO・市民社会組織

国際NGO・市民社会組織には以下を求める。

- **思春期の女の子とユース女性と協力**し、ジェンダー平等を基盤とし、インターセクショナルかつ包括的な気候変動対策プログラムを設計・実施すること。また、**気候変動に関する提唱活動において彼女たちの声を広く発信し**、彼女たちの経験や観察が政策およびプログラムの中核に据えられるようにすることが求められる。
- **思春期の女の子とユース女性によるICTおよび関連スキルの習得を支援し、彼女たちが主導する知識ハブを設立すること。**このハブでは、提唱スキル、気候科学、政策決定過程に関する包括的な学びを提供し、彼女たち自身がトランスフォーマティブかつ参加型の調査を実施できるように育成することが求められる。さらに、彼女たちの参画による「気候変動に対するレジリエンス革新ハブ」を設置し、コミュニティにおける適応力を高め、気候変動の影響を軽減するための革新的な手段を特定・共有・強化していくことが重要である。

ドナー

ドナーには以下を求める。

- **思春期の女の子とユース女性が気候変動対策に関する政策策定プロセスに参画できるよう促進するための提唱活動を実施すること。**その第一歩として、気候変動への適応に特化した資金を提供し、背景や状況の異なる多様な思春期の女の子とユース女性が、地域・国家・国際レベルにおいて気候変動アジェンダの形成に平等に関与できる機会を確保することが求められる。
- 気候変動/ジェンダー/ユースの要素を包括的に扱う・思春期の女の子とユース女性が主導する・フェミニスト的アプローチを採用する**現地組織に対して、長期的かつ柔軟な資金提供と能力強化の機会を確保・提供すること。**

畑を歩く男性、ブルキナファソ
© Plan International

脚注

1 INFORM Climate change tool (2024)、以下にて入手可能: https://drmkc.jrc.ec.europa.eu/inform-index/.

2 ND-GAIN Country Index (2020, updated in May 2023)、マトリックス表は以下にて入手可能: https://gain.nd.edu/our-work/country-index/matrix/.

3 SIGI Index (2023)、以下にて入手可能: https://www.oecd.org/en/publications/sigi-2023-global-report_4607b7c7-en.html

4 Awiti, A., O. “Climate change and gender in Africa: a review of Impact and Gender-Responsive Solutions” (2022): https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fclim.2022.895950/full/.

5 UNHCR “Climate Risk Profile: Sahel” (2021): https://www.unhcr.org/publications/brochures/61a49df44/representative-concentration-pathways-climate-risk-profile-sahel-region.html.

6 International Labour Organisation “Breaking the bias for better gender data”(2022)、以下にて入手可能: https://ilostat. ilo.org/blog/breaking-the-bias-for-better-gender-data/.

7 ピアツーピア調査参加者

8 ピアツーピア調査参加者

9 ピアツーピア調査参加者

10 FGD参加者

11 ピアツーピア調査参加者

12 ピアツーピア調査参加者

13 ピアツーピア調査参加者

14 ピアツーピア調査参加者

15 FGD参加者

16 FGD参加者

17 この参加者は、フォトボイス手法の一環としての、写真に基づくFGDに参加した。

謝辞

特に感謝申し上げる。

本調査の実現のために、自身の時間・エネルギー・洞察力を捧げてくれた共同調査者および参加者、とりわけ多くの思春期の女の子とユース女性の皆様に、心より感謝申し上げる。

プラン・インターナショナルは、皆様にも感謝申し上げたい。

heraチームが本調査の全段階を主導し、本要約版の基となる報告書を作成してくれました。また、世界各地、特にサヘル地域において献身的な支援を提供してくれたプラン・インターナショナルの職員の皆さまにも、深く感謝する。

プロジェクトマネージャー:
Nsah Juli-Collette Bongsiisy

報告書編集:
Sharon Goulds

デザイン:
Doodlio Studio

デンマーク　ノルウェー　ドイツ　ベルギー

Until we are all equal

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利を推進し、誰もが平等な世界の実現を目指し85年以上にわたり世界80カ国以上で活動する国際NGOです。一人ひとりの子どもが本来持つ力を引き出すことでコミュニティに前向きな変化がもたらされることを信じて、子どもや若者、さまざまなステークホルダーとともに活動しています。特に、貧困や暴力、差別や排除によって弱い立場に置かれている女の子の支援に力を入れています。

子どもや女の子たちが直面している不平等を生む原因を明らかにし、その解決にむけ取り組むことで、子どもたちが生まれてから大人になるまで寄り添い、自らの力で困難や逆境を乗り越えることができるよう支援します。

誰もが平等な世界の実現にむけて、歩みを止めずに進んでいきます。

2025年発行。本文 © Plan International.
プラン・インターナショナルは、本報告書に掲載された写真の公開に、許可と必要な同意を得ている。

Plan International
Global Hub
Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155
Fax: +44 (0) 1483 756505
E-mail: info@plan-international.org

plan-international.org
facebook.com/planinternational
twitter.com/planglobal
instagram.com/planinternational
linkedin.com/company/plan-international
youtube.com/user/planinternationaltv